第１学年　数学科学習指導案

１　単元名　　「平面図形」

２　単元の目標

○　図形の対称性や作図の仕方に関心をもち，対称な図形の性質や，角の二等分線などの作図の仕方を調べたり，おうぎ形の弧の長さや面積を求めたりしようとする。

○　平面図形を対称性に着目して考察したり，角の二等分線などの作図の仕方を線対称な図形をもとにして見いだしたりすることができる。

○　平面図形を対称性に着目して調べたり，角の二等分線などの作図をしたりすることができる。

○　円周率の意味やおうぎ形の弧の長さと面積の求め方について理解し，求めることができる。

３　単元の評価規準

関心・意欲・態度	見方や考え方	表現・処理	知識・理解
・身の周りの線対称や，点対称な図形に関心をもち観察や操作実験などを通して平面図形を対称性の観点から見たり調べたりしようとする。 ・作図の仕方に関心をもちその方法を考えようとする。 ・基本の作図を利用して目的に応じた図形をかこうとする。 ・おうぎ形の弧の長さや，面積に関心をもち，観察や操作，実験などを通して求め方を考えようとする。	・観察や操作，実験などを通して基本的な図形を対称性の観点から見直しその性質を考えることができる。 ・作図の仕方について，対称性や図形を決定する要素に着目し手順を考えることができる。 ・おうぎ形の弧の長さや，面積の求め方を，中心角の大きさとの関係に着目して，考えることができる。	・ある図形が，線対称，点対称であるかどうか判断し説明することができる。 ・線対称や点対称な図形を，その性質に基づいて見いだしたり作図したりすることができる。 ・線や垂直二等分線，角の二等分線など作図の手順を説明し実際に作図することができる。 ・おうぎ形の弧の長さや，面積を求めたりその求め方を説明したりすることができる。	・線対称や点対称の意味，また，対称な図形の性質を理解している。 ・線対称の軸や，点対称の中心の意味を理解している。 ・作図の意味と方法を理解している。 ・垂線や垂直二等分線，角の二等分線の意味と作図の仕方を理解している。 ・円の接線の意味や，円の半径と接線との関係を理解している。

４　単元と生徒の実態

(1)　単元と生徒

小学校では，具体的な操作や観察などを通して，基本的な図形について理解したり，興味・関心を喚起したりしてきている。本単元はこれから始まる図形の性質を，論理的に考察していく学習の入り口にあたる。そのため，図形の論理的な考察や，論証に対する関心や意欲を十分に引き出し，それらの性質を論理的に考察する基礎を培うようにしていく必要がある。

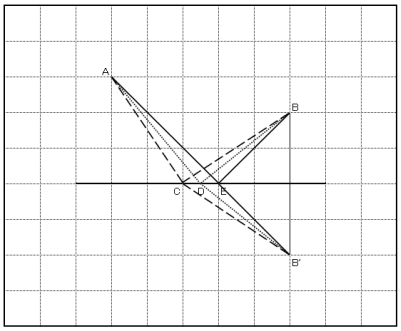
ただし，１年生での図形における推論は，２年生から始まるような，根拠を明らかにして図形の内容全体を体系的に扱うものではない。実測などによって帰納的に調べたり，作図した手順を振り返って調べたり，また経験的に明らかなことがらを使いながら，不完全な形ながらも必要に応じて部分的に扱うものである。そのため本単元では，作図や観察，操作や実験を通して，図形に関する直感的な見方や考え方を深めるとともに，少しずつでも論理的に考察するための基礎を培っていくことが大切になる。

さらに新学習指導要領では，第１学年の図形の内容においてこれまで明記されていた「直感的な見方や考え方を深めること」の表現が小学校６年に移行され，次の表現が加わった。

観察，操作や実験などの活動を通して，見通しをもって作図したり，図形の関係について調べたりして平面図形についての理解を深めるとともに，論理的に考察し表現する能力を培う。

机上で考えるだけでなく積極的に具体例を取り上げたり，見たり触れたりすること，さらに，見通しをもって調べたりする必要性が述べられている。

これらのことから，本単元では，まず図形に関する新しい用語の意味や記号，作図の仕方などの基礎・基本を丁寧に扱う必要がある。そして，単に知識や作図の手順，弧の長さや面積の公式を覚えるのではなく，学び得た基礎・基本をもとにして，身の回りの具体的な事象と結び付けながら数学的な見方や考え方のよさを感じることができるような場面を，計画的に取り入れていく必要がある単元といえる。



※　上は本時の課題の考え方
（ＡＢ’は一直線になっている）

(2)　生徒の実態

学習態度は真面目で，毎日の課題を忘れずに提出できる学級である。右は４月と９月に実施した，数学に関するアンケートの結果である。

どの項目も，総じて高い回答が得られており，数学の学習に対する意欲や，関心の高さがうかがえる。2，4，5，10，12は100%の回答が得られた。とりわけ 12 の項目は数学の学習における“学び方”の良好な姿勢であり，今後も引き続き大切にして，さらに継続して伸ばしていくことが求められる。

ところで，数学の授業で生活班を用いて活動することには，自分の考えを発表しやすいことや，他者の考えを聞きやすいという利点がある。

しかし，学習内容に照らし合わせたとき，生徒にとって必然性のない活動となる場合もある。

表面上は，活発な活動に見えても，学習内容を度外視していたり，継続的に取り組んでいなかったりする中では，互いの考えを融合させ，よりよい考えに練り上げていく姿勢は，なかなか身に付くものではない。そこで１時間の中で一度は声を出し，他者とかかわってほしいと願い，些細な計算問題の答え合わせでも，近くの生徒と確認するようにさせた。また（時間を区切って）席を離れてよいことも伝えている。その結果が 12 の姿にも結実したと考える。そして現在，班活動を組織しなくても，互いの考えを見比べて誤りを指摘したり，自分の考えを改めたりする姿勢も身に付いてきたと感じている。

No	質　問　項　目	４　月	９　月	比
1	数学の勉強は好きだ	９３	８９	▼
2	数学の勉強は大切だ	９６	１００	△
3	数学の授業の内容はよく分かる	１００	９６	▼
4	数学ができるようになりたい	１００	１００	―
5	分からないときはあきらめずにいろいろな方法を考える	１００	１００	―
6	学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える	８６	７５	▼
7	学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つ	１００	９６	▼
8	問題を解くとき，もっと簡単に解く方法がないか考える	８９	９３	△
9	公式やきまりを習うとき，その根拠を理解するようにしている	１００	９６	▼
10	問題の解き方や考え方が分かるように，ノートに書いている	９６	１００	△
11	解き方が分からないとき，先生に質問して解決しようとする	４４	５５	△
12	解き方が分からないとき，友だちに質問して解決しようとする	９３	１００	△
13	自分の考えを発表するのが好き	５８	５５	▼

※　質問項目は「全国学力・学習状況調査（中学校数学）」より一部を引用

※　質問は４段階で，数値は肯定的な回答をした生徒の割合（%）

５　指導計画（全 14 時間　本時　３／14 時間）

節	項（時数）	主　な　学　習　内　容	用　語　等
対称な図形	図形の用語 ①	○　既習事項の確認と新しい用語の意味 ※昔の遊びを取り上げて，実際に折り紙を折ったり，昔のおもちゃを見せたりする中で，図形の要素に着目させ，見つけた図形の名称をあげたり，計量の方法などを思い出したりさせる。	長方形，正方形，台形，ひし形，二等辺三角形，正三角形，円，平行四辺形，直角三角形，面積の求め方
	線対称な図形 ②	○　対称な図形の性質①（線対称） ※線対称な図形に関する新しい用語の意味にふれる。また，折り紙を取り上げて，線対称な図形の性質を確かめさせる。対称の軸が縦の場合，対称の軸が横の場合。 ○　対称な図形の性質②（線対称）　（本時） ※２点間の距離を，線対称な図形の性質を利用して考えさせる。	線対称，対称の軸，直線，半直線，線分，２点間の距離，垂線，合同，（補助線）
	点対称な図形 ②	○　対称な図形の性質③（点対称） ※身の回りの具体物を取り上げながら，点対称な図形に関する新しい用語の意味にふれる。また，折り紙を取り上げて，点対称な図形の性質を確かめさせる。	点対称，対称の中心
	図形と対称 ①	○　対称な図形の性質④（点対称） ※多角形の対称性（対称の軸，対称の中心など）について，一覧表を用いて確認する。	正多角形
	円と直線 ①	○　弧と弦の意味，おうぎ形，円と直線の位置関係，円の接線	弧，弦，おうぎ形，中心角，接線，接点，接する
作図	基本の作図 ②	○　基本の作図①（作図の意味，垂直二等分線，角の二等分線） ※コンパスと定規だけを用いて作図すること。対称な図形の性質②の課題について，正しい作図の仕方を確認する。	作図，中点，角の二等分線，垂直二等分線
	いろいろな作図 ②	○　垂線，点と直線の距離，平行な二直線間の距離，円の接線 ※これまで学習した対称性や円の接線の性質を用いて作図する。	点と直線の距離，平行な２直線間の距離
	弦の性質 ①	○　弦の性質 ※弦の性質を利用して垂直に等分線の作図から円の中心を求める。	
章末の問題　②		○　章末問題	

６　単元の指導の構想

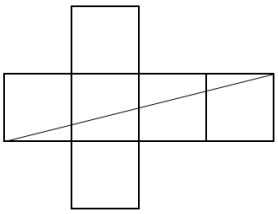
これまでに「不等式（１年生)」や「図形の証明（２年生)」で行った授業では，不等式の解の意外性や互いの図が違っていても同じように証明できる不思議さなどから，生徒の活発な意見交換や新鮮な発見が生じた。班活動の必然性やよさを感じながら活動させることもできた。これらの実践から，

「生徒にとって，学習内容や目的が明確になる要素が含まれる課題や手立てを工夫する」ことで，
①　互いの考えを確かめ合う必然性を生じさせることができる
②　学習内容に基づいて，生徒にとってねらいをはっきりさせた話合いをさせることができる

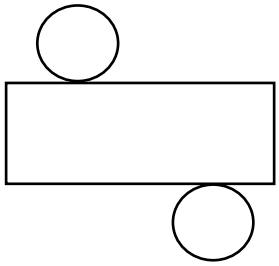
ことが分かった。

図形領域は，新しい用語や性質が数多く出てくる。特に１年生では，基本的な作図の仕方やおうぎ形の弧の長さ，面積の求め方を身に付ける必要があり，内容の豊富な単元である。そのため単に用語や性質を覚えたり，作図の仕方を習得させたりすることに終始するあまり，生徒にとって受け身的で味わいのない単元とならないような配慮が必要である。身近な生活の中から，具体例を提示したり，実際に操作したりさせながら指導することを大切にしたい。また前述の通り，論理的に考察する力を培う必要性を踏まえ，

生徒が図形の性質を考察する場面を計画的に設定していく。



例えば，平面図形の導入で提示されることの多い，３つの点から等しい距離にある点の求め方を考えさせる。これは作図の仕方を学習した後に扱うことが多い。その時には正確な位置を作図できるようになっているものの，その理由を理解していない生徒の多くは，単に操作ができたというだけで，場面設定が変わると考えることができないことが多いからである。



さらに，本単元に続く空間図形でも，立方体の側面を通る線分の最短距離を考えたり，円柱や円錐の底面の円周が側面の長方形やおうぎ形の弧の長さと一致する理由を考えたりさせる。立体を表面的な形のままとらえていると，平面の展開図として見ることができなくなっていくからである。

本時で取り上げる課題は，多くの場合，図形に関する様々な性質や作図の仕方を習得した後，発展的な問題として扱われる。作図の仕方を身に付けたことで，正確な位置を確定できたり，既習事項を振り返りながら考えたりすることが期待できる。その一方，それまでの図形の対称性などの理解が不十分だと，作図の仕方ばかりに目が向き，大切な図形の性質を活用することなく，難問として，生徒の中に残ってしまうことが多い。このことから，仮に作図の仕方は不十分でも，もっと図形の性質に着目して実測したり，既習事項を活用したりする活動を大切にする必要がある。このことが“正しい位置を調べるために正確な作図が必要である”という意識の流れにつながっていくと考える。

７　本時の学習（本時　３／14 時間）

(1)　本時のねらい

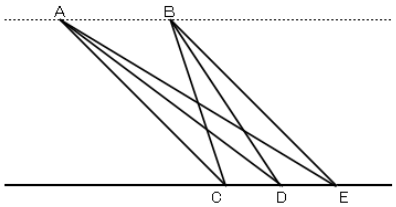
○　２点間を結ぶ線分の最短距離に関心をもち，進んで解決しようとする。　（関心・意欲・態度）

○　２点間を結ぶ線分の最短距離について，その理由を考えることができる。　（見方や考え方）

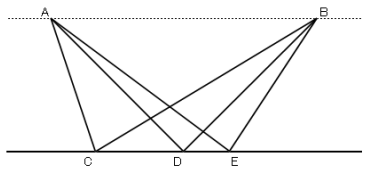
(2)　本時の構想

生徒は前時までに，対称な図形の性質について，おおよそのことを学習している。しかし，それはまだ単なる知識にすぎず，対称な図形の性質を深く考えたり理解したりするまでに至っていない。

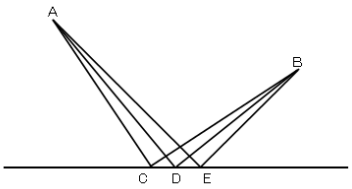
そこで２点を結んだ直線ＡＢと平行な直線上にあり，点Ｂの外側にある３つの点を示し，これらとＡ，Ｂを結んだ線分の中で最も短い距離はどれか問う。（図１）生徒は**生活経験などから**，点Ｂから一番近い位置にある点を結んだ線分が，最も短いと考えるであろう。次に２点Ａ，Ｂ間にある３つの点を結んだ線分ではどうか問う。（図２）生徒は**直感的に**，Ａ，Ｂの中間にある点を結んだ線分が，最も短いのではないかと考えるであろう。最後に，２点Ａ，Ｂを一方の直線と平行でない位置にずらした場合ではどうか問う。（図３）そこでなぜそのようにいえるのか問い，考えさせる。これにより**生徒に論証に関する興味や関心を引き出し，それまでの生活経験や直感，実測などによる考察から，既習の線対称の性質を活用して論理的に考察しようとする基礎を培うことができる**と考える。



（図１）２点を結んだ直線ＡＢと平行な直線上にあり，点Ｂの外側にある３つの点Ｃ，Ｄ，ＥとＡ，Ｂを結んだ線分の中で，最も短い距離を問う。（正解は点Ｃ）



（図２）２点を結んだ直線ＡＢと平行な直線上にあり，２点Ａ，Ｂの間にある３つの点Ｃ，Ｄ，Ｅと，Ａ，Ｂを結んだ線分の中で短い距離を問う。ＤはＡ，Ｂから直線に降ろした垂線の中点になっている。（正解は点Ｄ）



（図３）２点Ａ，Ｂを，もう一方の直線と平行でない位置にずらし，３つの点Ｃ，Ｄ，ＥとＡ，Ｂを結んだ線分の中で，最も短い距離を問う。Ｃは点Ａと点Ｂに等しい距離（線分ＡＢの垂直二等分線上）にあり，Ｄは図２同様，Ａ，Ｂから直線に降ろした垂線の中点になっている。（正解は点Ｅ）

本時では，単元の指導の構想も踏まえ，次の手立てを講じる。

【手立て１】　論証に対する関心を引き出し，論理的な考察を促す課題を提示する

本時は，いろいろな場合における２点間を結ぶ線分の最短距離について考えさせる。

はじめに，２点を結んだ直線ＡＢと平行な直線上にあり，点Ｂの外側にある３つの点Ｃ，Ｄ，Ｅと，Ａ，Ｂを結んだ線分の中で，最も短い距離はどれか考えさせる。生徒は生活経験などから，点Ａからも点Ｂからも短い距離にある点Ｃが最短距離であることを考えることができるであろう。

次に，２点を結んだ直線ＡＢと平行な直線上にあり，２点Ａ，Ｂの間にある３つの点Ｃ，Ｄ，Ｅと，Ａ，Ｂを結んだ線分の中で，最も短い距離はどれか考えさせる。ＤはＡＢのちょうど中間にあることをあらかじめ伝えておく。ここでは生徒は直感的に，ＡＢの中間にある点を結んだ線分が最も短いのではないかと考えるであろう。この場合Ｄは直線ＡＢと平行な直線に対し，点Ｂと対称な点と点Ａを結んだ線分の交点と一致するため，生徒の考えは正しい。しかしそれが，図形の対称性に基づいたものであることに気がつく生徒は少ないと予想される。いずれの場合も，生徒に実測させて確かめさせる。さらに黒板では実際に紐をあてて直線にして比べ，視覚的にもどれが最も短いか確認できるようにする。ここでの気づきが次の課題の解決の見通しにつながるため，単に答えを確認するだけでなく，長さの等しい線分や，場合によっては大きさの等しい角はないか比べさせるようにする。

最後に２点Ａ，Ｂを，もう一方の直線と平行でない位置にずらした場合について，３つの点Ｃ，Ｄ，Ｅと，Ａ，Ｂを結んだ線分ではどうか問う。Ｃは，点Ａからも点Ｂからも等しい距離（線分ＡＢの垂直二等分線上）にある。またＤは図２同様ＡＢのちょうど中間にあることを，それぞれあらかじめ伝えておく。ここで生徒は，これまではあいまいながらも予想できた判断の根拠が揺らぐことが予想される。そこで実測させＣでもＤでもなく，Ｅが最も短いことを確認させる。生徒はこの結果に驚くであろう。このタイミングをとらえ「その理由は何なのだろう」と問うことで，生徒の「理由を明らかにしたい」という関心や意欲が引き出され，思考の流れが論理的な考察に向かうと考える。

【手立て２】　生徒の自然なかかわり合いを生むヒントコーナーを設置する

「生徒の実態」から，生徒は，安易なヒントの提示や教具の工夫に目を奪われることはない。むしろそれによって既習事項を振り返ることができたり，自分の考えを見直したりするきっかけになるものを求めているといえる。また，これまでの実践から私は，形式的な班活動や生徒にとって必要感のない話合いは組織する必要がないと強く感じるようになった。逆にいえば，生徒たちの自然なかかわり合いや，必要感のある話合いを組織できないか，常に模索しているのである。

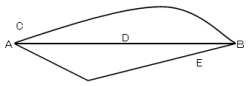
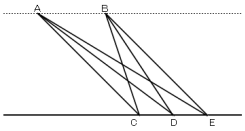
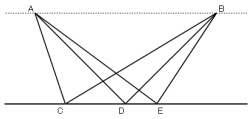
そこで本時では，３つ目の課題の場面でヒントコーナーを設ける。生徒には（時間を区切って）席を離れてヒントコーナーでヒントを見てよいことを伝える。そこに集うのは，同じ壁の前で立ち止まっている，共通の疑問をもった仲間たちである。ヒントを見ることによって，これまで考えなかった見方に気づいたり，理解を共有したり，さらに互いに自然に説明したり，説明を求めたりする姿が生まれると考える。言語活動の充実が求められている現在，ヒントコーナーの設置は，生徒の自然なかかわり合いをもたらし，互いの考えを確かめ合ったり，伝え合ったりする姿が生まれると考える。

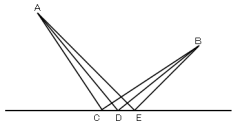
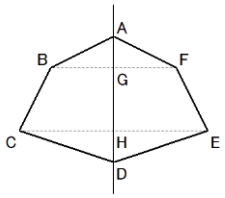
ただし，ヒントコーナーの活用は，強要するものではない。一人でじっくり考えたかったり，近くの生徒と相談したりすることを望む生徒もいると思われる。そのため，ヒントコーナーを活用させる時間には，自由に席を離れて相談してもよいこととする。

【手立て３】　根拠の見通しをもちやすいワークシートを工夫する

前単元の比例や反比例でも，ある座標をｘ軸やｙ軸に関して対称に移動した座標を考えたり，原点に関して対称な座標を考えたりした。その際，グラフ用紙に記された方眼は，生徒が対称を考える大切な拠り所となっていた。本時はまだ作図の学習をする前の段階である。そのため，方眼を入れたワークシートを用い，そこに本時の図を示しておく。これにより，まだ正しい作図の仕方を学習していない生徒たちも，マス目の数や垂直な線を利用して，簡単な作図をしたり，長さを比べたりすることができる。そして，対称の軸に対して点Ｂと対称な点を見つけ，論理的に考える根拠の見通しがもちやすくなると考える。

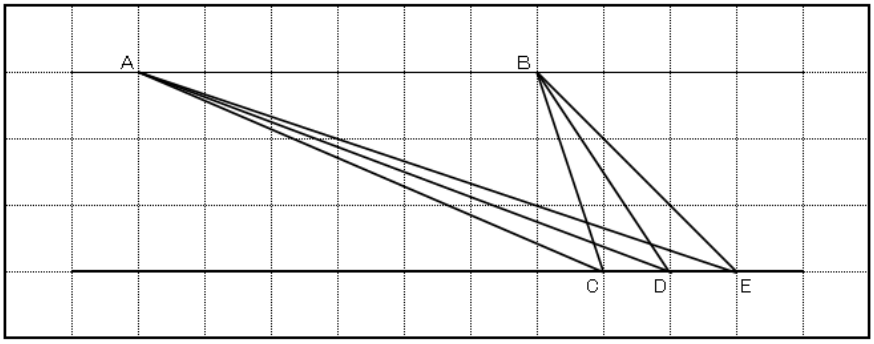
(3)　展開

活動内容，時間	教師の働き掛け（○）と生徒の予想される反応（・）	評価，準備（・），留意点（※）
	○　２点Ａ～Ｂへ行くには２点を結ぶ線分が最短距離だったことを確認する。それぞれ紐をあてて，直線にして示す。	※□内は掲示するカード ・距離を表す掲示物
前時を振り返る （３分）	Ａさんが Ｂさんの家へ行きます。 最も距離が短いのは，Ｃ～Ｄのどの道を通ったときだったでしょう。  	※前時の確認でも，本時の課題の比較の根拠となる点であるため時間はかけずに全員で確認する ・最も距離が短いのは
	・直線になっているからＤだ　　・ＣやＤは遠回りだった	
	○　２点Ａ～Ｂへ行く前に，ある点を中継してから行く場合，どれが最短距離になるか考えさせる。（点Ｂの外側にある場合）	・ワークシート①
２点の間の最短距離を考える① （４分）	Ａさんが Ｂさんの家へ行きます。 その前に花屋さんで花を買って行きたいと思います。 最も距離が短いのは，Ｃ～Ｅのどの店に寄ったときでしょう。  	・図１の掲示物 ・紐 ※問題の場面を丁寧に説明する ※定規で測ってよいことを伝える **ー　個に応じた支援　ー** **しばらく生徒の様子を黙視した後次のような支援を行う**
	・今度はどれも直線になっているなぁ ・一番遠い店は，一番距離があると思う ・一番近いからＣの店だと思う　　・定規で測れば分かるよ	①意味を正しく解釈できない生徒には，個々にもう一度説明する
答えと理由を発表する　（２分）	○　近くの生徒と答えと理由を確認させる。 ○　Ｃが最も短いことを生徒に発言させて確認する。また目で見ても分かるように，それぞれの線分に紐をあてて，直線にして示す。	②答えだけを書いている生徒には近くの生徒と相談させる
	○　２点Ａ，Ｂの間にある場合について考えさせる。	※図２までは“定規で測った”という理由まででよいこととする
２点の間の最短距離を考える② （８分）	それではこの場合はどうですか。 Ｄの店は２人の家のちょうど中間にあります。最も距離が短いのは，Ｃ～Ｄのどの店に寄ったときでしょう。  	③図３はヒントコーナーに行ってよいことを伝える ・図２の掲示物 ※問題の場面を丁寧に説明する
	・これは多分，Ｄの店じゃないかな ・ＥＢは短いけれど，ＡＥは距離があるよ ・ＡＣも短いけれど，ＣＢは距離がある ・やっぱり定規で測ってみよう	
	○　近くの生徒と答えと理由を確認させる。 ○　Ｄが最も短いことを生徒に発言させて確認する。ここでも線分に紐をあてて，直線にして示す。	※ここでは答えを確認するだけでなく長さの等しい線分はどこか比べさせ，板書して印をつけておく
	・おおっ，やっぱりＤだった　　・見た目で分かる ・直線にしてみると，意外と長さが違うものだなぁ ・多分，マス目の数も関係していると思うよ	

理由や疑問を発表する　（３分）	○　Ｄが最も短いと思う理由や，生徒の中の疑問を自由に引き出す。 ・ちょうど中間にあるから？　　・何だかよく比べられないな ・定規で測って確かめたから正しいはず	
２点の間の最短距離を考える② （１５分）	○　２点Ａ，Ｂをもう一方の直線と平行でない位置にずらした場合について考えさせる。 最後にこの場合はどうでしょう。 Ｃの店はＡさんの家にもＢさんの家にも等しい距離にあります。 Ｄの店は２人の家のちょうど中間にあります。  ・前は中間にあるＤの店だったけど，これはどうだろう？ ・Ｃの店もどちらにも等しい距離にあるし… ・今度は見た目でも分かりにくいぞ ・Ｅの店は考えられないかな　　・ここでも測るしかない ・測るとＥの店になるみたいだ　　・なぜＥの店になるのだろう	・ワークシート② ・図３の掲示物 ※問題の場面を丁寧に説明する ・ヒントボックス ※ヒントは線対称な図形の性質を確認できるものを用意しておく
答えを確認する （７分）	○　答えが分かったところでＥが最も短いことを生徒に発言させて確認する。ここでも線分に紐をあてて，直線にして示す。 この場合は，Ｅの店が最も短いようですね。はじめはＢさんの家に一番近いＣの店，次はＡさんとＢさんの家の中間にある，Ｄの店が最も短かったですね。この場合は，なぜＥの店が最も短いといえるのでしょう。定規で実際に測ること以外に，何か理由は考えられないだろうか。 ○　ここで実測以外に見分ける方法がないか，じっくり考えさせる。生徒の様子を見守った後，ヒントコーナーを活用したり，近くの生徒と相談したりしてよいことを伝える。	 ※実測以外に比較することはできないか考えさせる 【評価】 ２点間を結ぶ線分の最短距離に関心をもちすすんで解決しようとしたか （ワークシート，行動）
理由を発表する （３分）	○　自分の席に戻し，Ｅが最も短くなる理由を発表させる。 それでは，Ｅの店が最も短くなる理由を発表してもらいます。 ・Ｂさんの家が，店のちょうど反対側にあると考えても，店までの距離は変わらないことを利用すると，Ａさんの家と結んだ線分が直線になっている　等　（Ａさんの家を反対側と考えてもよい） ※「対称な図形の性質」などの言葉が出ない場合も，まず生徒の言葉を取り上げ，その後，補足する。 ２点Ａ～Ｂへ行く前にある点を中継してから行く場合も図形の対称の性質を利用すると，最短距離を比べやすくなりますね。	※線分や直線などの用語の使用や説明が不十分な場合は，生徒のことばを補うようにする ※前の問題の場合も対称の性質を用いて説明できることにふれる
本時を振り返る （３分）	○ワークシートの振り返りを記入させ，回収する。　（２分）	【評価】 ２点間を結ぶ線分の最短距離についてその理由を考えることができたか　（ワークシート）

【資料】本時のワークシート

Ｑ１　ＡさんがＢさんの家に行きます。その前に，花屋さんで花を買って行きたいと思います。
最も距離が短いのは，Ｃ～Ｄのどの店に寄ったときでしょう。

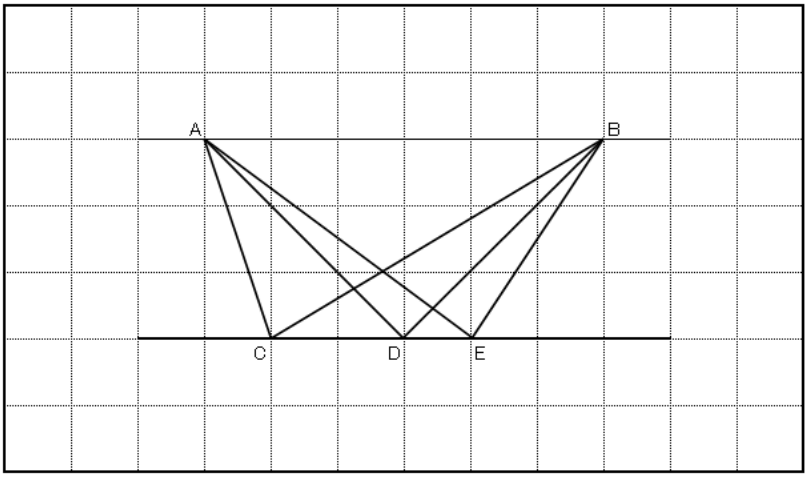


最も短い距離は

そのように考えたのはなぜですか

の店に寄ったとき

Ｑ２　ＡさんがＢさんの家に行きます。その前に，花屋さんで花を買って行きたいと思います。
最も距離が短いのは，Ｃ～Ｄのどの店に寄ったときでしょう。

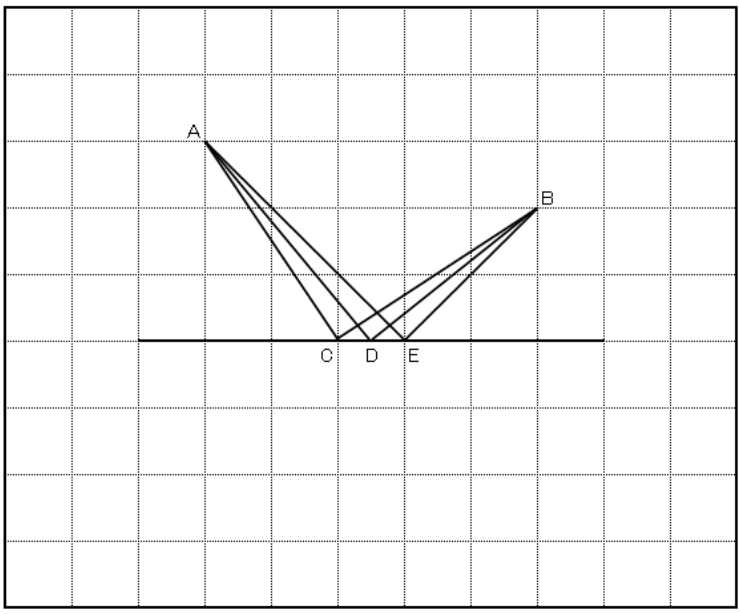


最も短い距離は

そのように考えたのはなぜですか

の店に寄ったとき

Ｑ３　ＡさんがＢさんの家に行きます。その前に，花屋さんで花を買って行きたいと思います。
最も距離が短いのは，Ｃ～Ｄのどの店に寄ったときでしょう。



最も短い距離は

の店に寄ったとき

そのように考えたのはなぜですか

☆　今日の授業を振り返りましょう。

	はい		だいたい		あまり		いいえ
１　すすんで問題を解決しようとしましたか。	４	―	３	―	２	―	１
２　問題の理由を考えることができましたか。	４	―	３	―	２	―	１

☆　今日の授業で分かったことをかきましょう。